

ミュンスター大学の歩き方

留学が決まるまでの経緯

私は、岡山大学病院に約3年間在籍しました。最初から、医員は2-3年で転勤になると聞いていたこともあり、2年半がすぎた頃に、突然留学してみようかなあと思いました。2007年の1月に整形外科の専門医試験があったので、2月から3月末まで留学しようと考えました。脊椎が専門だったので、最初は、人工椎間板を使用している施設を考えたのですが、何もコネのない病院に行くにはあまりに準備の時間がなかったため、尾崎教授が昔勤務していたミュンスター大学を選びました。最初、ミュンスター大学からいただいた返事は、以前バリバリ手術をしていた脊椎のDrが転勤してしまったため、脊椎の研修には向かないというものでした。ということで、ミュンスター大学では腫瘍チームの見学をすることになりました。結果的には、ゲストハウスを無料で提供してもらい、留学中の待遇も良く、選んで正解だったと思っています。留学について全く知識がなかったのですが、普通は奨学金を獲得してから留学先をきめることが多いようです。私の場合もDAADというドイツの奨学金システムの願書を急いでとりよせたのですが、準備に時間がかかったわりに、あっけなく書類選考で落とされました。シンセスのAOスパインに奨学金制度があったのですが、AOスパインのセミナーに参加していないと資格がもらえず、これも断念しました(AO traumaに参加していてもダメだそうです)。

ミュンスター大学では主に手術見学をさせてもらいました。尾崎教授のコネのおかげで、毎日必ず、手術にエントリーされていました。他の大学からきた留学生は手術には参加していないことが多かったようです(滞在期間が短かったからかも)。ドイツでは、医師には英語が通じますが、それ以外のスタッフや事務系の人には英語はあまり通じません。ほとんどの手術が15時までに終わるので、それから先は、自由時間になります。週末に旅行に行きたいときなど、金曜日や月曜日に休むのも全然OKみたいです。休む時は、事前に担当チームのDrに伝えておけばOK。



Dr. Gosheger と

関心したこと

毎週水曜日の朝 7 時から 30 分ほどの講義があります(観衆は Dr が 30 人ほど)。この講義は、スタッフの先生から、大学院生くらいの先生まで、持ち回りで行なっているようでした。印象的だったのが、どの先生も皆、講演の仕方が上手ということでした。若い先生の講演は、内容はありふれたものなのですが、それでも観衆に語りかけながら、堂々と発表していました。原稿やスライドばかり見ながら発表しては、いけないなあとし反省して、今後には生かそうと思いました。



日本からの交通手段

私は関空からフランクフルト経由でミュンスター空港まで移動し、その後はタクシーを使用しました。妻と3才の娘の3人でフランクフルト空港についたのですが、空港の手違いで、なぜか2回入国審査と手荷物チェックを受けることになりました。それに時間がかかり、ミュンスター行きの飛行機に乗り遅れた上、手荷物チェックの際にパソコンを置き忘れてしまいました。後日、そのパソコンのことを空港に問い合わせる際に、パソコンのシリアル番号がわからないと問い合わせに応じることができないと言われました。その時は、現地の panasonic 営業所(日本語)に問い合わせをして、購入した時期などをもとに、シリアル番号を教えてくださいました。海外でPCをなくした経験のあるDrは非常に多いので、パソコンや携帯電話には、パスポート番号をはっておくのがベストだと思いました。

ミュンスターに到着して、まずすべきことは、市内の地図を入手することです。今回は、Helmut が地図にスーパーやレストランの位置を書いてくれたので、助かりました。今回宿泊したのは、Europahaus という建物で、尾崎先生も使用したことがあるそうです。大学病院まで徒歩15分です。歩いて5分ほどの場所にレストランもあります。

市内の移動には、自転車があれば便利ですが、1ヵ月レンタルするのなら、購入した方が安いそうです。ということで、私の場合は移動にはもっぱらバスを使用しました。バスは、ミュンスター中央駅(Hauptbahnhof)や市内のスーパーにでかけるのには非常に便利ですが、土日は便が半分くらいになります。1ヵ月券がお徳です(9時以降に使用できるチケットにするとさらにお徳)。これは、majorな停留所にチケット販売機があるので、そこで購入できます。ドイツでは、バスに乗る時に、チケットを購入するか、すでにチケットをも

っている場合は、それを運転手に見せます。4回使えるチケットなどもあり、バスに乗った時に機械で日付を押します。

ドイツについてしばらくの間は、お金のことを考えずに食事をしてきましたが、当時1ユーロが約170円くらいだったので、あっというまにお金がなくなりました。日本でいうと、おそらく牛丼一杯600円くらいだったのでしょう。後半の生活は自炊をメインにして、なるべく出費をおさえました。ドイツで使用するお金については、トラベラーズチェックを持っていく方法と、クレジットカードで現金をおろす方法(たいてい20万円くらいまでおろせる)、city bankなどの口座を日本で開設しておく方法などが考えられます。

私の場合、city bankで口座をつくろうと思ったのが、出発の1週間くらい前で、すでに間に合わず、トラベラーズチェックを30万円分もってきて、残りはクレジットカードでキャッシングしました。クレジットカードは、インターネットで予約したホテル、鉄道(DB)、サッカーのチケットなどの支払いに使用できます。レストランは使える店と使えない店が半々くらいでしょうか。スーパーも使える店と使えない店がありました。できれば、city bankなどの口座をもっておいた方が、いざというときに日本から家族に送金してもらえるので良いと思います。カードはマスターカードとVISAカードを持っていきましたが、マスターカードしか使いませんでした。

ドイツサッカー(ブンデスリーガ)について

私は、サッカー部にいたこともあり、ほとんどの週末に、サッカー観戦をかねた観光にでかけました。初回は、一番近かったこともあり、シャルケというチームのホームスタジアムに行きました。後で知ったのですが、シャルケは日本でいう阪神みたいなチームでサポーターの応援が熱烈です。チケットもほとんど地元サポーターに完売で、インターネットでの販売は実質してないようです。スペインやイタリアでサッカーをみたときは、駅周辺のタバコ屋でチケットが簡単に買えたのですが、ドイツでは事情が異なります。そうとは知らず、当日券を買おうと駅周辺のタバコ屋を回りましたが、全くチケットを売っている気配は無く、スタジアムの販売所でもチケットは売り切れと言われました。あきらめて帰ろうとしたところ、ダフ屋のおじさんがチケットを買わないかと近寄ってきました。相場がわからないので、いらないと言って、しばらく遠くからながめていました。そうするとドイツ人の30歳前後の人達が、2枚を60ユーロで買ってました。そのあと別のダフ屋が近寄ってきて、1枚60ユーロでどうだ?といわれました。他にも何人かダフ屋がいたので、強気で、2枚60ユーロでなければ、いらないと言ったら、そのダフ屋のおじさんは、いなくなりました。でも、そのやり取りをみていたほかのダフ屋が近づいてきて、2枚60ユーロでもOKということだったので、それを買いました。3歳の娘は無料で入れます。チケットは、立見席で、正規の値段は1枚が9ユーロでした。立見席は、シャルケ応援席のゴール裏(ここが、チケットは安いですが、一番白熱する)で、ものすごい応援でした。試合は、2-0でシャルケが勝利し、スタジアムは大盛り上がりでした。ちなみにスタジアムは満員御礼でした。帰りの駅は、酔っ払いのサポーターが大声をだしており、警察が出動してました。可能ならあらかじめ、ホテルを予約しておいた方が安全です。

翌週は、インターネットが使えるようになっていたこともあり、インターネットでチケットを

販売している、ハノーファー96というチームのチケットをネットで予約しました。インターネットは、英語バージョンではチケットが買えないことが多く、ほとんどがドイツ語サイトです。日本のサイトでドイツ語翻訳可能なものがあったので、それを駆使して、予約しましたが、なれると結構簡単です。チケットは、試合までに日にちがあれば、郵送してくれます。なければ、おそらく試合当日にスタジアムで手渡しになるのだと思います。ちなみにハノーファー96は6-8位くらいのチームで、スタジアムは5万人入る大規模のものです。当日券もたぶん十分に購入可能だと思います(当日は4万人ほどの入場者)。対戦相手がボルシアドルトムントというサポーターが激しいチームだったので、当日、駅周辺はボルシアサポーターとそれを取りまく警官たちという構図でした。このときは、事前にホテルと鉄道もネットで予約しておきました。ドイツの鉄道(DB)チケットは、インターネットで英語表記もあり、非常に購入しやすいことがメリットです。おまけに、チケットによっては、半額近い値段で購入できるものもあり、おすすめです。チケットはプリントアウトして当日もって行けばOKですが、購入にはクレジットカードの登録が必要です。そして当日車内で駅員さんがまわってきたときに、クレジットカードの提示をもとめられます。試合は、ホームのハノーファー96が4-2と大勝したので、かなり盛り上がりました。そのほかに、ヴェルダーブレーメンとハンブルガーSV(昔高原が所属)の試合もみにいきました。2試合とも事前にチケットを予約してましたが、当日券もありました。



ハノーファー96のスタジアム



ヴェルダーブレーメンの試合
中央はドイツ代表のクローゼ

インターネット環境

ミュンスター大学には、Helmut 日本からきた留学生用に、日本語のOSをダウンロードしたコンピューターがあります。もちろんインターネット使用可能。場所は3階のカンファレンスルームの斜め向かいにあります。4時には電源が切られます。日本語を入力するには、お気に入りに、海外PCから日本語入力できるサイトが登録してあるのでそれを使用します。このPCのおかげで留学中はかなり快適な生活ができました。majorな論文もダウンロードできます。USBメモリがあれば、自分のPCとデータの交換も可能です。その他、駅周辺にはいわゆるネットカフェがあるようで、そこには日本語のPCがあります(日本語入力はできないので、先ほどの日本語入力サイトを使用)。

意外に役に立ったもの

海外に行く時には、保険に入ります。その保険には、現地でトラブルにあった時の連絡先が書いてあります。トラブルはもちろん、保険によっては、チケットやホテルの手配もしてくれるものがあり、日本語スタッフが対応してくれるので、かなり便利でした。JTBの保険に関しては、Ji デスクがフランクフルトにあり、それをしょっちゅう利用しました。具体的には、PC をなくした時にフランクフルト空港に問い合わせしてもらったり、サッカーのチケット確保やドイツ国内の飛行機の手配もしてくれました。今回の留学中、いざというときに一番役に立ちました。

平成 19 年 3 月 22 日

杉本佳久

Email: yoshihisa64@hotmail.com